



混声合唱団

コーロ・チェレステ

「将来下関の子どもたちに、こんな大人になってほしい」という願いで、令和5年度下関市社会教育振興大会に招待され、歌声で人々を感動させたコーロ・チェレステ。そのハーモニーの裏側に迫ります。

楽しく集い、
歌い続けて36年

みんなが人生のお手本

「最初は随分とお兄さん、お姉さんだなどと思いましたが、皆さんすごく良い歌声でした。生き方も素敵で、人生のお手本にしたいと思っています。皆さんに会えるので、練習が楽しみです、ワクワクします」新しく入団した松本正子さんは話します。

そのお兄さんの一人、94歳の三宅泰人さんは、10年前に入団。男性の入団で、コーロ・チェレステは混声合唱団になりました。「合唱の魅力はみんなで声を合わせて、一緒に歌えることです。足を引っ張ら



▲人々を感動に包み込んだ下関市社会教育振興大会。予定にはなかったものの、団長さんの一言で、会場の人と一緒に全員で歌を歌いました。

イタリア語でコーロは合唱、チェレステは天空・碧空を意味します。

「最初のように、家でCDを聴きながら音取りをしています」と三宅さん。団長の山崎良子さんは「三宅さんの意欲的な姿がみんなの励みになり、目標でもあります」と話します。

下関短期大学准教授の前田知子さんは、地域貢献の一環として6年前から合唱の指導をしています。「曲名は団員の映画音楽、NHK朝ドラの曲など、さまざまなジャンルの曲を歌っています。みんなチャレンジ精神が旺盛です。そんな生き方だから、歌声に重み加わって、聴く人を感動させるんだと思います。私もこんな生き方をしたいと思います」

永遠の仲間

ます」



Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します♡



♡ Q ▼ @_takuya_silvia15さん



♡ Q ▼ @sanzan9さん



♡ Q ▼ @hara.da72さん

Former Tanaka Takeshi Residence

Editor's note

◆職員数の削減。広報戦略課も例外ではなく。業務内容によらず一律に減らすものなのだそうです。担当職員2人！ どうなる広報！ 宮村◆人一倍、市報に懸ける想いが強い職員が卒業です。心も人数も寂しいですが、読者が喜んでくださる市報を模索したいです。西村◆今回が最後の市報づくりです。取材にご協力いただいたみなさん、読んでくださったみなさん、大変ありがとうございました。廣野

編集後記

▼コーロ・チェレステ山崎さん
090
1777514059

コーロ・チェレステは、長い年月をかけて築き上げられた温かさに包まれています。

山崎さんは「お楽しみ会のをしたり、これから歌う曲の背景を楽しむために旅行をしたりする中でチームワークが育ってきたかな。いつも楽しい雰囲気があつて、チームワークの良さが誇りです。歳をとつても、ここに集える間は死ぬまで歌いたい、みんなそう思っています。そこが一番良いところかな。みんなとは永遠の仲間でありたいと思っています」

の歌詞も覚えて暗記をしてきたよね。若かったのね。今じゃ無理」と、設立当初からの団員は楽しそうに当時を振り返ります。「自分や家族の病氣などで休んでいて、久しぶりに参加しても違和感なく受け入れてもらえます。気心知れた仲間と会える安心感が、長く続けられた秘訣だと思えます。合唱は一人じゃできない。みんなで気持ち合せて合奏と良いハーモニーができません。なかなか満足していくハーモニーはできないけど、前回より今回と、向上心を持ってやってきました。団長が気さくで、何でも言いたいことが言えるのも良かったよね」



▶体を使いながら声の出し方を練習します。「歌は体が楽器です。横隔膜や声帯をたくさん使って声を出すから、皆さん元気なんだと思います」と指導者の前田さん。



◀練習では、お腹の底から歌い、笑います。



▶ピアノ伴奏の川畑道子さん(写真左)「一緒に音楽をつくっていくことが楽しく、歌声との一体感に感動を覚えます。私自身団員のみならずからパワーをもらっています！」